

VR 認知症体験会

(1) VR 認知症の特徴



認知症を「学ぶ」のではなく、認知症を「体験する」ことで
認知症のある方への理解を深める体験会

V R 認知症体験会

(1) V R 認知症の特徴

認知症本人の視点を体験することで、本人の思いの理解に繋がれることを目的としたプログラム

- 「V R 認知症体験会」は、V Rの技術を活用し、認知症の中核症状を一人称で体験するもの
- 複数の認知症の症状を本人視点で体験し、本人の視点に立ったときにその状況で何を感じ、何を思うのかを体験する
- 想像だけでは感じる事が出来なかった感情を体験した後に、同時に体験している参加者同士で感想を述べ合い、認知症がある方を取り巻く環境をどの様に変えることが状況改善につながるのか意見を出しながら認知症がある方を取り巻く問題の本質に迫る



V R 認知症体験会

(2) V R 認知症の内容 ※当日は以下のコンテンツの中から3つを体験します。

V R コンテンツ



VR 認知症体験会

(2) VR 認知症の内容

プログラムは当事者と共に作成



VR 認知症
「丹野智文物語」
モデル
丹野 智文 さん

丹野 智文さん（アルツハイマー型認知症 当事者）

1974年宮城県生まれ。ネットヨタ仙台勤務。39歳のときに若年性アルツハイマー型認知症と診断される。診断後は同社で勤務を続けながら、不安を持っている認知症ご本人のためのもの忘れ総合相談窓口「おれんじドア」実行委員会代表を務める。自らの経験を語る講演活動にも力を入れている。



VR 認知症
「レビー小体病 幻視編」
原作者
樋口 直美 さん

樋口 直美さん（レビー小体型認知症 当事者）

50歳でレビー小体型認知症と診断された。多様な脳機能障害のほか、幻覚、嗅覚障害、自律神経症状などもあるが、思考力は保たれ執筆活動が続けている。

V R 認知症体験会

体験者の声

認知症については、**全て理解しているつもりでいたが**、上から目線だったのかもしれない。“症状”を見て“ご本人”を見ていなかったのかもしれない。

(認知症専門医)

認知症の方の気持ちを理解し寄り添いたいとずっと思っていたが**なかなかできなくて苦しんでいた**。体験を通じてこれから自分がどうしていけばいいのかやっとわかった気がして涙が出た。

(介護職)

10年前にこの体験ができていたら自分の母親に対する介護が変わっていたかもしれない。今介護をしている家族に見てほしい。

(介護家族)

今まで受けてきた講義とは全く違う理解の仕方で驚いた。VR体験の力に大変驚かされた。

(認知症認定看護師)

認知症に対して「大きな負」のイメージしかなかったが、体験を通じて負のイメージがなくなった。

(大学生)

現在レビー小体型認知症の父親の介護中だが、今日から少し優しく接することができるのではないかと考えた。

(介護家族)

ニュースや口コミで内容を知っていたが、百聞は一見にしかず。体験して驚いた。VRの技術もすごかった。

(医療専門職)